■事前に寄せられた質問への回答

★小学校低学年から、情報活用能力の育成のためにICTを使った授業が行われていますが、学校図書館を使った授業とICTを使った授業での使い分けを考えた時、学校図書館に何が必要でしょうか。

→そもそも「使い分け」をしません。紙もデジタルも併用します。併用するための子どもたちの紙へもデジタルへも対応できるスキルと、環境(コレクションや Wi-Fi や……)が必要です。

★「MottoSokka!」(宮澤先生の学校が活用事例で紹介されている)の実際の活用事例、活用方法、活用後の良かったこと、困ったことを教えていただけますか。

→(今年度は予算化されず導入されていません)まずは図書館の時間で基本的な使い方をきちんとレクチャーします(その前に紙の百科事典の使い方はマスターしています)。それを特別な時ではなく、授業中に気になることがあればいつ調べてもよい、という状況を作り出しておく(先生方とよくコミュニケーションをとる必要があります)だけです。タイプスキルが高い高学年は、個人追及の時間以外でもさっさと引いて調べていますし、それを成果物に反映させてきます。困ったことは特にありません。予算化されず使えない今年度、確実に子どもたちから不満の声が出ていますが。基本的に紙の百科事典をクラス全員で授業中に使うということは不可能です。オンラインであるからこそ使えます。

★学校図書館のコンピュータ化が市として全く進んでいない地域で、学校図書館がGIGAスクールの取り組みに参加するには何から手をつけたらよいかアドバイスをいただきたいです。蔵書のデータベース化? Wi−Fiの整備? LANの整備? 図書館にコンピュータが配備されること?

→ご自身の学校にある、モノや環境の中で使えるものを何でも使ってみるという意識と、真っ先にどうしてもこれが欲しい、というものをきちんと戦略的に打ち出すことかと思います。(これがしたいからあれが欲しい、の順番)

★本を読むことに困難を感じている児童・生徒にとって、GIGAスクール構想が手助けになることとはどんなことがあるでしょうか? デイジー図書のように映像と音声で本を読むことができるとか?

→デイジー図書、電子書籍などのデジタルならではの機能を有するものはかなり活用ができます。デイジー図書でしたら伊藤忠財団の「わいわい文庫」(無料、一度申し込むと毎年新作が送られてきます)https://www.itc-zaidan.or.jp/summary/ebook/waiwai/ の活用をお勧めします。また、リーディングトラッカーやルーペ、LL ブック、その他読むのに困難がある方へ向けたツールやサービスがたくさんありますので、それ等をどれでも提供できるようにしてあります。またそれらのツールやサービスについての広報も重要です。

★図書館を活用した探究学習では、各学年どのような活用をされましたか? 事例を紹介していただけたらありがたいです。

→教科書で「本で調べましょう」と記載がある単元にはほぼかかわっています。どの時期にどの教科でどのよう資料が必要かはあらかじめ図書館側が把握しているので、その時期に担任と軽く打ち合わせをします。打合せの内容は資料だけの提供なのか、司書が入って授業するのか、あらかじめ必要な情報活用能力とその指導はどうするのか?あたりですが、もはやこれが阿吽の呼吸なのでチャットで簡単に声をかけるだけのような場合も多くなりました。

★授業などで積極的に図書館を活用してもらうために、どのような働きかけをされましたか？

→図書館を使うことが「面倒でないこと」「授業にとってメリットがあること」「子どもたちの成果物の質が上がること」を先生方に体感してもらうことを積み重ねてきました。最初は押しかけ営業です。

★紙資料とデジタル双方で調べるのが望ましいですが、まず紙資料の使い方が浸透していません。学校司書の雇用も様々で司書同士交流できない学校もあります。今の学校図書館の現状についてのお考えをお聞かせいただけたらと思います。

→情報活用能力の指導は、自治体で足並みをそろえて実施しないと、進学後に低レベル層に合わせた再指導が必要になるというジレンマがあります。紙資料の使い方が浸透していないと実はデジタルもうまく使えません。
学校図書館の現状は、社会認知と本来の機能のずれが大きく、だからこそ課題すらも覚知してもらえない状況にあります。大きな変革を望みつつ、目の前の子どもたちの学校図書館像を変えていくことが先につながると信じています。

★高森町立高森北小学校と高森町子ども読書支援センター司書を兼務されているようなのですが、どのように勤務されているのかどのように仕事をされているのか知りたいです。他校の司書の方はどうなのかも教えていただきたいです。

→基本は高森北小学校におり、月、金は授業を入れずにセンター業務を行えるようにしてあります。ほかの学校の司書はセンターの辞令が今年から出ましたが、基本的には普通の学校司書と同じです。業務チャットで常に情報交換をしながらの勤務なので、別々の場所で勤務していますがチームで仕事をしています。

★学校司書になられて子ども達に図書館をたくさん利用してもらう為、色々な分類の本を読んでもらう為に取り組んで効果が見られた事は何ですか？

→読書センターを中心にお答えすれば、徹底的な読書指導と読書案内、児童の実情の分析、です。

★百科事典の活用をどのように子ども達に勧めていかれたのですか？

→基本的な使い方は国語科での授業のあと、もう一度図書館できちんとさらいます。そのあと様々なプログラムで楽しく百科事典を引いたり、百科事典の項目を使ったワークショップ等を実施したりして、普段から使うツールに定着させていきます。

★学校図書館と著作権について、宮澤先生が取り組んでおられる活動や、児童生徒への指導方法について具体的に知りたいです。

→宮澤は教育著作権フォーラムの初中等ワーキンググループのメンバーです。著作権法第35条のガイドラインの作成や、ワーキンググループへの依頼で著作権情報センターの教材作成のお仕事などをさせていただいています。町内においては、毎年著作権の研修講師、著作権に関する相談窓口を請け負っています。児童への指導では、教科書で扱われるのは高学年ですが、著作権そのものの概念等は低学年から声掛けをして日常的に指導をしています。高学年での指導は教材化しています。

★図書館のデジタル化が進んでおられるようなので、授業等でどのように活用しているのか知りたいです。

→読書センターとしては、電子書籍も普段の読書の選択肢としてすでに定着しています。学習センターとしては学習資料を紙ベースとデジタルと両方で提供しています。また町内の文化財情報をデジタル化する活動も同時に進めています。情報センターとしては、アナログだけでなくデジタルにも対応できる情報活用能力の育成をし、日常の調べ学習で子どもたちがどちらも使えるようにしています。図書館が扱う情報を本に限定せずデジタル対応もすることで、音声や動画で提供できたり、無料で有効なデータベースを活用できたりします。デジタル資料も紙と同じ感覚で扱っている状況です。

★GIGA スクールを活用した児童生徒委員会活動について詳しく知りたいです。

→各委員会に Google クラスルームが開設されており、児童会計画などもすべてオンライン上でのやり取りになります。委員会でのブレスト、反省などもすべて6年生が作成した Google のツール上で実施されています。ポスター制作やスライドの応用など、アウトプットにも有効に活用されています。

★学校図書館が教師と一緒に活動していくために、日ごろからどのように教師や管理職に働きかけているのか、心がけていることを教えていただきたい。

→学校図書館と学校司書の有用性を、先生方の日ごろの教育活動の中で体感していただける機会を少しでも増やし、たくさんメリットを享受していただくことでその地位を安定させています。古い学校図書館像を塗り替えるというより、これまで知らなかった新しい側面を見てもらう、という意識があるかもしれません。

★教師との打合せや授業の分担、準備などはどのようにしているのか、具体的に教えていただきたい。

→チャットや会話でコミュニケーションをまめに取ります。準備はなるべく図書館が先行し、提案することで先生方の負担を減らし、図書館活用のハードルを下げ、気軽に依頼いただけるよう配慮します。

★時代とともに、考え方とかやり方がいろいろ変わってきます。学校図書館で、今後のためにしておいたら良いものは何でしょうか。

→「読書」「学校図書館」「情報」などの捉えなおしは必須かと思います。図書館に行けばありとあらゆる情報が入手できる、情報のハブであることを小学生のうちから定着させるための手立てをその時代に合わせてきちんと打てるよう、司書のアンテナを高く広くしておく必要があると思います。ことデジタル関係の知識やスキルは必須でしょう。

★調べ学習の時間がどんどんなくなり、図書室は読むだけが多いです。学習、情報センターとしての図書館にするには、どうやったらよいと思いますか。

→なぜ少なくなったのでしょうか？　まずはその原因を探り、そこに対策が必要でしょう。学習情報センターとしての使い勝手を今一度検証する必要があります。

★宮澤さんの勤務する高森北小では、小学１年生から百科事典の使い方を教えているという記事（東洋経済 ON LINE2022/11/12）を読みました。4年生に教えるときとの違いと配慮した点などあれば教えてください。

→図鑑が1年生からです。ただし2年生あたりでも百科事典を引ける子には使わせますし、その都度使い方はレクチャーします。百科事典に限らず、情報活用能力の指導は低学年で基礎的なことをまずは一通り全部教えてしまって、その後の学年で経験を積み定着させる、という手法でアプローチすることが多いです。

★調べ学習で、必要かつ有効な基本的図書（資料）と買換えの時期をどうされているか教えてください。

→教科書で確実に必要とされている学習資料については、指導書にどういった内容が必要であるかわかる記述がありますので、そこを漏らさず、古くならないように配慮します。内容が古ければ即除籍します。資料費が少ない分の担保を、公共図書館からの手配で賄います。

★東洋経済 education というサイトに記載がある「学習指導要領改訂に合わせ、町内で教育の足並みをそろえるべく、「情報活用能力の年間指導計画」も立てた。全学年の国語科の教科書に記載されている情報活用に関わる指導項目を系統的に整理し直し、指導項目ごとに教材を作成。授業進行のシナリオも作り、誰がやっても同じ指導ができる仕組みを整備した。」について

①できれば具体的に年間指導計画一部でも見せていただきたいです。

②作成した教材も差し支えのない範囲で拝見したいです。

③これらを作成されるときに相談した人（管理職の先生、現場の先生、司書、教育委員会等でしょうか）について教えていただきたいです。

→①については、講演の中でお見せします。②についても、著作権の関係もあり公開はしておりませんが、こちらも講演の中でお見せしますし、気になるものについては個別にお問い合わせいただきたいと思います。③は、作成に当たっては学校司書主導で公共図書館の司書も加わって作成、実施にあたり司書教諭や担任へのヒアリングもしながらすすめました。センターの業務として実施したので、教委にも共有がされています。

★・探求活動における情報収集の際、生徒に ICT と紙媒体資料のどちらかを選ばせると、どうしても ICT ばかりに頼りがちになってしまいます。紙資料媒体へのアプローチの方法や、紙資料の有効性について、生徒にどのように説明していらっしゃるかをお聞きしたいです。

→高森町ではどちらかではなくどちらも使う、という手法をとっています。紙とデジタルそれぞれのメリットデメリットを丁寧に説明します。ほしい情報によってどちらを使うべきか？の判断ができるようにサポートします。

■大会後に寄せられた質問への回答

★Google の資格について

・宮澤が取得しているのは Google 認定教育者 Lev.1 と2です。（R5年度中に Google 認定トレーナー取得予定）
・詳しくは
https://edu.google.com/intl/ALL jp/for-educators/certification-programs/product-expertise/?modal active=none
こちらをご覧ください。

★業務 chat について

・高森町は学校の GIGA スクールで Google を採用している関係で、現在は Google Chat を使っています。（関係職員全員に ID 発行済み）

★情報活用能力年間指導計画について

・国語科の教科書にある情報活用能力指導項目をピックアップ、先生方がお使いの国語科年間指導計画の上にレイヤーする形で配列（ただし、教科書通りでなく単元の前にやったり、2学年にまたがる指導をあえて下の学年にまとめたりしていますので、教科書通りの時期の実施とは限りません）
・作成は学校司書が主導してスタッフ全員で行い、教材を作成から実施にあたっては先生方にご意見をいただきました。また実施する中で出てきた先生方からの様々なご希望を入れながらブラッシュアップしています。
・教材データに著作物が多く含まれていることもあり、公開はしていません。年間指導計画についてはお問い合わせいただければお見せすることができますので、ぜひご連絡ください。（宮澤 librarianyukomiyazawa@yahoo.co.jp）
・時間ごとの打ち合わせはしません。国語科の単元との連動が必要な時期には口頭で（もしくはチャットで）短時間（せいぜい2, 3分）打ち合わせをします。

★「読みたいと思う」の引き出し方

ほんとうにいろいろありますが……いくつか。
・子どもたちの好奇心は学校の「教科」で考えないほうがいいと思っています。0－9類のすべてにおいて「おもしろそう」はたくさんありますので、それらを「見る」「聞く」「触る」「嗅ぐ」などで体験できるような仕掛けもします。ただし、こちらも面白がれる程度の、時間も手間もかからない（置いておくだけ、とか）で、仕掛けます。（手間がかかると続かない）気になる写真を書架にただ貼っておく、ガチャの青虫をころがしておく、音色の違う鈴をカウンターに置く、などなどなど、、、本以外の刺激的な「なにか」を図書館のあちこちに、そして景色化しないようにゲリラ的に出没させています。
・大人が「面白かった！」をたくさん話して聞かせる、一緒に面白がる、というのはとても効果があると思っています。司書のそういう姿を真似して担任の先生方が教室でもやってくださると、さらに効果的。
・結局読んでみないとわからない「本」に足を踏み入れるきっかけをありとあらゆる方法で提示します。映画やドラマの原作なら映画のチラシやパンフレットを置くのもいいだろうし、前の日にテレビで話題になっていた本をPOPもつけずにカウンターのど真ん中に置いておく（なにこれ？からコミュニケーションできる）、いっそ本を開いて置いておく……などなど。

★公共図書館との共働を考えた経緯

・キャリアスタートが公共図書館だったため、学校図書館の少ない蔵書ではまともにレファレンス対応ができない、たくさん読んでほしいという割にたくさん本はない、などの資料不足の解決策として（物の調達）一人ではできないけれど、二人ならできることが飛躍的に増える経験（＝前任地で今一緒に仕事をしている中学校の司書と2人で、大規模校で授業準備の暇もない状態を何とかするために読み聞かせの年間計画を作るなど、様々な取り組みをしてきました）があったこと、公共時代の自分を振りかえって学校司書の忙しさを改善するための方策として（人の確保）公共図書館の司書は学校のことをこんなにも知らなかったのか？という自分の経験、公共と学校の持っているノウハウの違いを逆手に取れば、集合知が得られるとの考え（場の確保）など、学校に足りないものを手に入れる方法を考えた結果です。
・同じ一つの行政予算から出ているものばかりなので、仕組みを変えればフル活用できる、効果はこう期待できる、など、首長に直接プレゼンしました。町長のOKが出てから、島根県松江市へ教育委員会の事務局長以下関係職員全員で視察に行き、本来の学校図書館の姿を「見て」もらうことで、たかもりまちに「ないもの」を見てもらいました。具体的な学校図書館の完全体が見えなくとも、今ないものを見せることはそこを埋めるという方向で動きが一致するので、前に進む原動力となります。
・単独で勤務校だけのレベルを上げるほうが簡単ですが、そうするとせっかく高いレベルにある子どもたちが進学した先の中学校で、別の学校の子どもたちと一緒になり、そのレベルに達していないほうに合わせてスタートさせることになるジレンマがありました。この取り組みの自治体単位で実施する価値を、周囲に理解いただくことも重要です。
・学校を超えての取り組みの前に、まず校内の意識を、周辺の同業者一人でもいいので共有を、と考えます。

★本に興味がない子へのアプローチ

一例ですが……
・その児童の興味があることが、本に載っている、というこちらの捉え方の切り替えが必要かと思います。その子の興味に寄せて、写真でも、データでも提供すればよく、それがたまたま本であることで本の世界へいざなうことができると考えています。
・時間がない（中高生は深刻です）子に読める本、は「読む」だけでなく「眺める」でもいいかと思います。時間がなくても没頭する子、読書と切れない子もいますので、時間がない＝読めない、と図書館側が思考停止にならないようにとは意識しています。「ちょっと見てみて！」（「読んでみて！」ではない）といったように、声掛け一つで捉え方が変わります。

★学校図書館の継続利用を学校司書が仕掛けられること

・もうこれは、図書館面白い、好き、楽しい、行きたい……図書館に対するポジティブイメージを持ってもらう！の一択です。そのための仕掛けは何でもします。「何でも」という捉えが図書館職員（公共も含めて）は狭いかなと思っています。0－9類、なんでもあるのですから。